

要 望 書

平成 24 年 1 月 23 日

東京大学総長 濱田 純一 殿

〒112-0011 東京都文京区千石 2- [REDACTED]
広 田 淳 子
電話・FAX：03-3944-5934
〒112-0001 東京都文京区白山 4- [REDACTED]
稲 葉 信 子
電話：03-5976-8223

要望内容：下記の1～4を要望する署名を提出いたします。東京大学職員組合と、東京大学理学部職員組合とが、それぞれ機関署名の形でこの問題についてご意志を表明下さったものです。2と4は、文京区が行うべきことですが、東京大学との間の取り決めによる事業なので、文京区に対して東京大学から申し入れをしていただきたく存じます。1～4の要望と関連した5を含め、5点について、要望いたします。昨年12月13日には同趣旨の署名3378筆を提出いたしました。この問題に対して、世間の多くの方が疑問を抱いていることは明らかです。東京大学のほうで問題点を真摯に受けとめ、要望に応じてくださるよう、お願いいたします。

- 1 小石川植物園の周辺道路（区道）の拡幅のために、小石川植物園の敷地を大幅に削る事業計画を見直して、植物園の敷地をできるだけ削らないものに変更してください。
- 2 文京区の小石川植物園周辺道路基本計画（案）による、小石川植物園脇の区道の拡充工事を、準備作業も含めてすぐに停止していただきたい。
- 3 この計画に関して、文京区、東京大学、小石川植物園、東京都、及び一般区民（近隣及び区内在住者等）の5者で協議する場を、急いで設けてください。
- 4 この計画の可否について、文京区のコミュニティゾーン整備協議会であらためて議論をしてください。
- 5 東京大学は、小石川植物園の学術的価値に鑑みて、学内の植物学の専門家及び、近世史の専門家から、この計画についての意見を聴取していただきたい。また、計画地における遺跡・遺構の調査については区が進めていますが、東京大学の遺跡・遺構の調査を担当する東京大学埋蔵文化財調査室が関わっているはずなので、調査の結果について十分な報告を受け、遺漏や隠蔽なく十分な調査や結果のとりまとめがないことを確認して下さい。

要望理由：現在、文京区が計画している小石川植物園周辺道路基本計画（案）は、東京大学が所有する小石川植物園の敷地を大きく削る計画です。西側道路側は、大半の部分が約1～2メートルずつ削られ、のべ1200平方メートルもの植物園の敷地が道路の拡幅に提供され、多くの植物が失われてしまいます。御殿坂側は最大2.9メートル削られてしまいます。

昨年12月8日には東京新聞が、また、今年1月5日には、朝日新聞がこの問題を取りあげて報道しました（別紙1、2）。そうしたこともあって、この問題は、ようやく広く世間の人たちの危機感を呼びつつあります。景観や住環境に関する団体、遺跡や文化財の保護に関わる団体、植物学や植物愛好の関係の団体など、さまざまな団体の方々が、この問題について私たちの主張を支持し、支援を表明してくださっています。団体として意見をとりまとめていくには、どうしても手続き的に時間がかかりますが、そうした中で、いち早く、東京大学の全学および理学部の職員組合のみなさんの機関署名が届きました。私たちはたくさんの人たちにこの問題についてお知らせしてきましたが、この計画に賛成を表明される方は、圧倒的に少数です。韓国、筑波大学、京都大学の植物学の名誉教授の方や、文京区の郷土史に詳しい方、著名な文化人などからも、ぜひ植物園を守ってほしいとのメッセージと一緒に署名が届いています。植物学や近世史研究の観点から、今回の計画が果たして大丈夫なのかという懸念を抱かざるをえません。なお、小石川植物園が21世紀のバイオ産業などの知の拠点として機能していくためには、珍しい草木の保存だけでなく、生態系を維持するためにその周囲の雑木も土壌や水の循環も含めて、全体の規模を縮小せずに維持されていく必要があるはずです。

いったん道路になってしまうと、もはや元には戻せません。このままでは、住民に必ずしも必要ではない道路拡幅のために、1700年代からの形状を保ってきた貴重な歴史的遺産である小石川植物園が不当に削られてしまう計画が実施されてしまいます。東京大学は、文京区が工面・負担する約3億円の塀の改修工事と引き替えに、約6億円相当の土地を道路として提供するような形になります。東京大学にとっても、後代に残すべき歴史的遺産の一部を犠牲にするには、あまりにも失うものが多いと思います。

文京区は、東京大学に対する説明と、道路の拡幅で利益を得る隣接住民に対する説明と、批判の声をあげる住民に対する説明との間で、微妙に異なる説明をしてくれています。「東京大学が求めている」「東京都が求めている」「住民が求めている」などと、その場その場で相手に合わせて都合よく情報を操作して、形式的な「合意」を取りつけ、さらには、東京大学との交渉の中でなしくずしに計画を拡充して、植物園の敷地の提供分を増やしてきました。この点は私どもで確認いたしました。

今ならまだ間に合います。最高学府であればこそ、文化財の保存に何よりも優先順位をつけていただければ、と願っています。約300年間、今の形状を保ってきた小石川植物園を、どうかこれまでの形状のまま後世に残して行ってください。

どうぞよろしく願いいたします。